

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	火/Tue 2
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	必修, 選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586013702	科目番号 / Subject code	05860137
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	リスク社会を理解する～医療と健康、社会科学、科学技術 (健康と医療の安全・安心)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	松田 尚樹		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	松田 尚樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	松田 尚樹, 大沢 一貴, 中山 守雄		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟11		
対象学生(クラス等) / Object Student	多文化社会・教育・経済・薬・水産		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	nuric@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	先端生命科学支援センター アイソトープ実験施設		
担当教員TEL/Tel	819-7163		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日 9:00~1000 (事前連絡により他の日時でも随時応相談)		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	五感で感じないうちに我々に忍び寄り、健康に重篤な影響を及ぼすこともある原発事故による放射性物質の拡散や鳥インフルエンザ感染の拡大は、人々の安全と安心を大きく揺るがしてきた。本授業では、放射線と人獣共通の感染症を基礎医学生物学及び薬学の観点から正しく理解することを狙いとして、その本体、健康リスク、予防、診断及び治療などに関わる基礎知識を習得する。また、グループディスカッションにより、健康における安全と安心についての自らの考えを深める。		
授業到達目標/Goal	放射線と放射性物質の基礎、健康影響、利用、測定、防護について正しい知識に基づき自分の考えを導くことができるようにする。また、実験動物および動物実験を取りまく法令体系を理解し、法律を知らないリスク、人獣共通感染症を知らないリスクについて学ぶ。		
授業方法(学習指導法)/Method	3名の教員がオムニバス形式で放射線と感染症を担当し、PCを用いて講義を行う。一部、放射線の測定等のデモンストレーションを行なう。終盤には提示された課題に対するグループディスカッションとプレゼンテーションを行なう。		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	放射線、放射能、原子力、感染症、動物実験		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	テキストは用いず、授業計画に沿った資料を配布する。資料はLACSでも閲覧可能。 参考図書： やさしい放射線とアイソトープ (社)日本アイソトープ協会 丸善(1,000円) 原子力災害に学ぶ放射線の健康影響とその対策 長瀧重信著 丸善出版(2,500円) リスクのモノサシ -安全・安心生活はありうるか- 中谷内一也著 NHKブックス(970円) 実験動物としてのマウス・ラットの感染症予防対策 (社)日本実験動物学会監修 アドスリー(2,650円)		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	1回から10回: 定期試験50%、授業中の課題に対する積極的な取組状況50% 11回から15回: 定期試験25%、授業中の課題に対する積極的な取組状況75%		
受講要件(履修条件)/Requirements	なし		
学生へのメッセージ/Message for students	放射線、感染症に関する情報(新聞、テレビ、ネット、種類は問わない)にアンテナを立てておくこと。		
授業計画詳細			
回(日時)/Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	実験動物: 経済動物と愛玩動物の間(9/29 大沢)		
第2回	実験動物と動物実験(10/6 大沢)		
第3回	動物実験と社会(10/13 大沢)		
第4回	人獣共通の細菌感染症(10/20 大沢・山中)		
第5回	人獣共通のウイルス感染症(10/27 大沢)		
第6回	放射線の基礎(11/10 松田)		
第7回	放射線の影響(11/17 松田)		
第8回	原子力発電と福島事故(11/24 松田)		
第9回	放射線リスクの考え方(12/1 松田)		
第10回	課題学習(12/8 松田)		

第11回	放射性同位元素（RI）とは何か -放射性物質の基礎知識-（12/15 中山）
第12回	放射能を測定するには -食品中、環境中の放射性物質-（12/22 中山）
第13回	提示される課題に対して、グループディスカッション（1/5 中山）
第14回	提示される課題に対して、グループディスカッション（1/12 中山）
第15回	グループ・プレゼンテーション，全体討論（1/19 中山）
第16回	定期試験（1/26）

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	火/Tue 1
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	必修, 選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586014102	科目番号 / Subject code	05860141
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	リスク社会を理解する～医療と健康、社会科学、科学技術 (リスク社会と社会科学)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	片山 朗		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	片山 朗		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	片山 朗		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟11		
対象学生(クラス等) / Object Student			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	akiraka@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	経済学部 東南アジア研究所303号室		
担当教員TEL/Tel	095 820 6405		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日14:30 - (事前にメールで予約確認のこと)		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	人口構造の大幅な変化が続く中、「チャンスを見つけやすい社会」、「互いに認め交流しやすい社会」の再構築が、個人生活のみならず日本経済の維持、発展の鍵となることを理解する。		
授業到達目標/Goal	経済社会の中長期的な諸課題の解決に向けた、経済学的なアプローチのセンスを身に付ける。		
授業方法(学習指導法)/Method	日本経済のトピックスについて、講義により基本的な事項を学習した後、学生間で話し合い、自分の意見をまとめる。		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	格差・貧困、人口構造、共生社会・消費者市民社会		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は使用しない。必要に応じて資料を用意する。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	期末試験は行わない。授業への取組(40%)、レポートの提出(60%)により評価する。		
受講要件(履修条件)/Requirements			
学生へのメッセージ/Message for students	日頃から新聞を読むなど、経済社会に対する関心を持ち、授業に臨むことを心がけてください。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	ガイダンス 経済学的アプローチとは		
第2回	若年世代の格差を考える(1)		
第3回	若年世代の格差を考える(2)		
第4回	世代間格差を考える(1)		
第5回	世代間格差を考える(2)		
第6回	世代を超えた格差を考える(1)		
第7回	世代を超えた格差を考える(2)		
第8回	格差と貧困を考える(1)		
第9回	格差と貧困を考える(2)		
第10回	地域間格差を考える(1)		
第11回	地域間格差を考える(2)		
第12回	消費者と事業者との格差を考える(1)		
第13回	消費者と事業者との格差を考える(2)		
第14回	共生社会・消費者市民社会の実現に向けて		
第15回	まとめ(授業の総括など)		
第16回			

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 2
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	必修, 選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586014502	科目番号 / Subject code	05860145
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	リスク社会を理解する～医療と健康、社会科学、科学技術 (科学と技術の安全・安心)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	林 秀千人		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	林 秀千人		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	林 秀千人, 久保 隆, 田中 俊幸		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育B棟15		
対象学生 (クラス等) / Object Student	教育, 経済, 薬学, 水産, 多文化		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	hidechto@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	工学部流体エネルギー工学研究室		
担当教員TEL / Tel	095-819-2516		
担当教員オフィスアワー / Office hours	月から金8時から8時30分		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	危険や不安に、どう考え、何をなすべきか、どのように対処するのかを学び、危険や不安のない安全・安心な社会の構築に貢献しうる知識と理解を涵養する。モジュール「安全で安心できる社会」の中で、実社会で安全で安心に生活できるような基礎的知識を身につける科目である。		
授業到達目標 / Goal	安全・安心な社会を構築するためには、目指すべき安全で安心できる社会のイメージを明確にすることが必要です。安全は、普段は見過ごし危険や事故に遭遇したときに意識するものですが、普段の取り組みが重要となります。 本授業では、安全とは何か、安心とは何かについて、「災害・事故からの社会システムの安全・安心(科学と技術の安全・安心)」の観点から、自ら努力をして維持することが重要であることを認識するとともに、日常意識をどのように保てばいいのか、自らが考えることで安全・安心が実現できることを理解することが目標です。		
授業方法 (学習指導法) / Method	基本的な事項について、講義により学習をする。さらに、テーマをもとに、みんなで安全・安心について考えて意識を高める。 安全・安心に関する提案を発表する。		
授業内容 / Class outline / Con	人間が安全で快適な生活を送るために、科学技術の発展が図られてきた。一方で、個人などでは処理できないさまざまなシステムが働いている。その中で、安全を維持し安心を図るために必要な基本的な考え方を習得するとともに、組織の中で個人が取り組む安全・安心の意識を育てる。 ・社会では様々な事故が発生し、貴い命が失われることも多い。そのような事故が起らないように安全を確保することが重要である。そのためには何が重要かを事故の事例とその原因を考えながら学習する。 ・長崎の豪雨災害をはじめ、これまで発生した災害を教訓に日本各地で防災の都市づくりが進められている。国や自治体レベルで行われている施策を学び、さらに災害が起こったときの備えについて学習する。 ・身のまわりの電気機器や電磁波を中心に、目に見えないものが身体へ及ぼす影響について、安全をどうとらえ、安全安心へどのように取り組まれているかを紹介し、安全安心を考える。 ・身のまわりのさまざまな物質に関して、安全を確保するための規制や法律等さまざまな考え方をもち、安全への取り組みを紹介し、安全安心を考える。する。		
キーワード / Key word	科学技術の安全、システムの安全と安心、安全文化と安心		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	安全・安心工学入門 (古今書院)、必要に応じて資料を配布する。一部Web上に資料を公開する。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	レポート, 発表, 講義の理解度により総合的に評価する		
学生へのメッセージ / Message for students	特に理由がない限り、講義に全回出席して下さい。オムニバスの講義なので、質問などは担当の教員に直接するようにお願いします。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	第1回 安全と安心の基本的な考え方について(林)		

第2回	第2回 災害とリスクマネジメントについて(林)
第3回	第3回 安全文化について(林)
第4回	第4回 事故の事例と原因紹介(林)
第5回	第5回 安全安心の意識調査(田中) 安全安心に関する提案のグループ分け
第6回	第6回 安全・安心に関する法律(田中) 安全安心に関する提案の打ち合わせ1
第7回	第7回 電気に関する安全安心(田中) 安全安心に関する提案の打ち合わせ2
第8回	第8回 安全安心に関する提案の発表会(田中)
第9回	第9回 電磁波に関する安全安心(田中) 安全安心に関する提案の総評
第10回	第10回 自然災害と安全・安心 その1(高橋)
第11回	第11回 自然災害と安全・安心 その2(高橋)
第12回	第12回 自然災害と安全・安心 その3(高橋)
第13回	第13回 化学物質の安全・安心 その1(久保)
第14回	第14回 化学物質の安全・安心 その2(久保)
第15回	第15回 化学物質の安全・安心 その3(久保)
第16回	